

新横浜は、小机城址と篠原城址の間に位置し、田園風景が広がる地域でした。

1964 (昭和39) 年の新横浜駅開業や、土地区画整理事業着工を契機に、港北インターチェンジの開設、環状2号線や横浜環状道路横浜北線・横浜北西線の開通、地下鉄の開通などにより、交通結節機能が高まり、“横浜の陸の玄関口”として発展してきました。

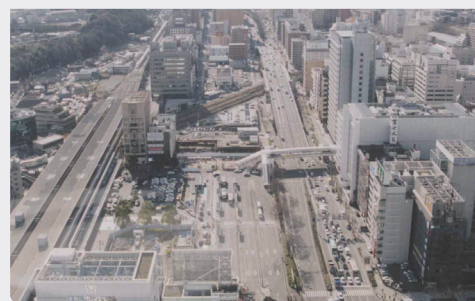
さらに1989 (平成元) 年以降、横浜アリーナ、横浜労災病院、横浜国際総合競技場など横浜を代表する施設の開業が続き、オフィスビル等とともに今日の新横浜の街並みを形成し、横浜経済を支えてきました。

土地区画整理事業完了から50年を迎えた今、横浜市は、新横浜の強みを生かして魅力をさらに高め、新横浜ブランドを確立し、将来へつないでいくために、「まちづくり方針」をまとめました。

新横浜に働き、暮らし、訪れる全ての方々が、つどい、つながり、愛着を感じられるまちづくりに、これからも地域の皆様と一緒に取り組んでいきます。



新幹線工事中 © 港北区役所



1980年代頃の新横浜駅前 © 港北区役所

## 新横浜駅北部地区まちづくり方針の生かし方

みんなで新横浜  
が目指す未来を思  
い描き、意見を交  
わし、共感する。

横浜市都市計画マス  
タープラン等の上位計  
画に基づく方針であ  
り、みんなの「思い」と  
して大切にする。

方針に示している目指す未来に向かって、  
それぞれの役割を持って、まちづくりに取り組む。

地域の役割  
実行力  
愛着

企業の役割  
技術力  
人材

行政の役割  
仕組み  
環境づくり

新横浜駅北部地区まちづくり方針 [概要版]

2026 (令和8) 年10月

協力 新横浜町内会 / 新横浜自治会 / アデニウム新横浜自治会

発行 横浜市都市整備局新横浜都心等事業推進課

〒231-0005 横浜市中区本町六丁目50番地の10

TEL: 045-671-3858 FAX: 045-664-3551

「つどう つながる 新横浜」はワークショップで提案されたキャッチフレーズです。  
本方針では、愛称として「新横浜 (しんよこはま)」を「シンヨコ」としています。

かもねくん



# シンヨコ つどう つながる 新横浜

概要版

## 新横浜駅北部地区の目指す姿

### シンヨコ つどいが価値を生み つながりが未来を動かす都心 新横浜

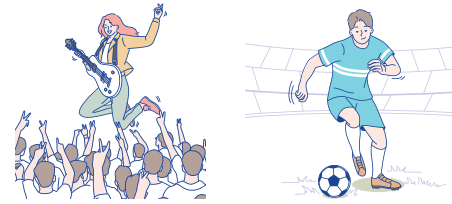
市域を超えて、多様な主体がつながり、協働し、  
にぎわいと交流を通じて、新たな価値を創出する都市へ

産業・イノベーションの力が地域の活力を高め、  
誰もが心地よく過ごせる、ウェルビーイングな環境が整うまちへ



## 1 広域的な拠点性を生かし 新たな魅力呼び込む

- 1 広域交通結節点としての機能
- 2 駅周辺の顔づくり



横浜アリーナ



東海道新幹線



新横浜駅前公園



新横浜パフォーマンス



バスターミナル



多彩な移動環境

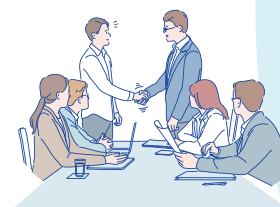
## 4 まちを舞台につどい・つながり 新たな出会いや愛着を生み出す

- 1 つどいたくなる場づくり
- 2 歩いて楽しいまちの創出
- 3 多彩な移動環境の充実
- 4 つながりを生み出す  
地域活動

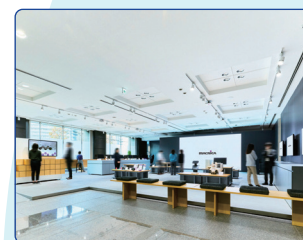


## 2 企業のちからと多様なつながりが 都心の未来をひらく

- 1 高度利用による  
業務機能の集積と都市機能の拡充
- 2 企業との連携によるまちの魅力創出
- 3 働く・暮らす・訪れる を支え、  
ウェルビーイングを実現するまちづくり
- 4 都市計画等による  
まちの骨格の形成



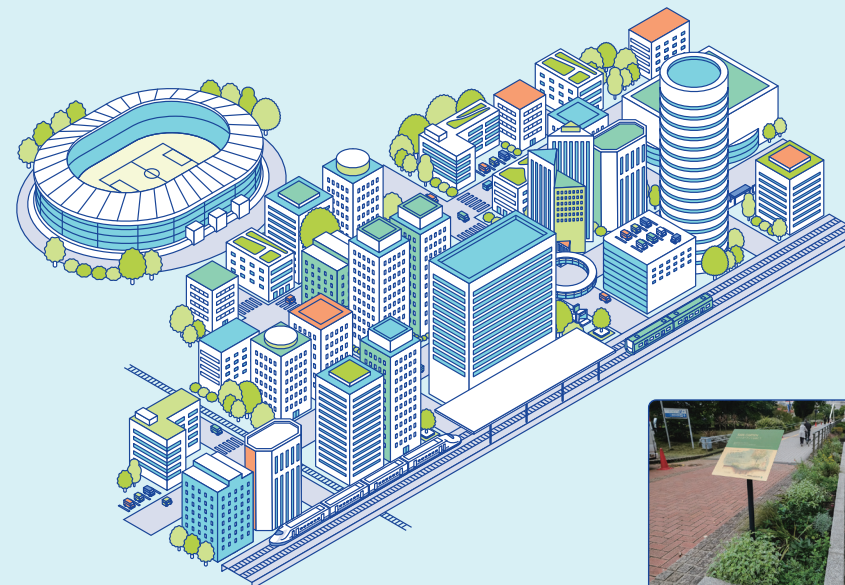
オフィスビル群



立地企業のショールーム



終業後の風景



鳥山川沿いの桜並木



公開空地の花壇



レインガーデン

## 5 自然のうるおいが まちに心地よさを届ける

- 1 環境にやさしいまちづくりの推進
- 2 脱炭素なライフスタイルの推進



## 3 様々な表情を持ちながら 調和する街並みを育む

- 1 拠点性のある都市景観の形成
- 2 通りの個性や表情を生かした歩行空間
- 3 潤いや安らぎを身近に感じられる  
景観づくり



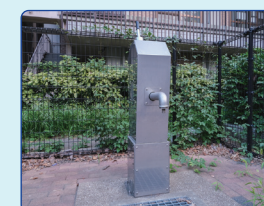
アリーナ通り沿いの街並み



グリーンポールのある街並み



歩行空間沿いの公開空地



新横浜第一公園災害用井戸



地域での防災訓練



足元を照らす夜間照明

## 6 日々の備えが 都心の未来を支える

- 1 暮らしと経済活動を守る  
防災と減災への備え
- 2 地域で備える安全なまちづくり
- 3 誰もが安心して暮らせる環境づくり



## 1 つどい・つながりと技術の活用

変化する社会に対応し、より一層働きやすく暮らしやすい、訪れたいまちを目指すためには、新横浜の強みである“地域力”に加え、“企業のちから”により新しい技術を取り入れるなど、楽しさや便利さを広げていくことに挑戦し続けることが、新横浜の新たな価値の創出につながり、好循環を生み出し、進化し続けるまちとなります。

まちを愛し挑戦し続ける新横浜

これからの時代を見据えて



地域のつながりを中心に、産官学住が連携し、持続可能で、多様性に対応した、柔軟で豊かなまちづくり

これまでに培った地域力  
地域のつながりを中心とした  
企業と住民が連携した  
豊かなまちづくり

地域力をさらに生かす  
加速度的に変化する社会、  
進化する技術力、  
ひろがる多様性等への対応

## 2 特性を生かす

横浜市都市計画マスタープランや策定中の土地利用誘導戦略等の上位計画を踏まえ、多様な都市機能の配置や規模、低層部における連続した賑わい形成とつどい・憩いの場の創出、大規模施設とまちをつなぐ回遊と滞留の工夫、豊かな暮らしづくりなど、地域の思いと誘導施策が一体となって、新横浜が持つ様々な特性を生かしながらこれからのまちをつくっていきます。



新横浜駅周辺エリア

共同化等による高度利用の推進や、業務・商業・ホテル等が建ち並ぶ活気あるエリアの形成、地区の顔として交流・滞留機能の誘導を図ります。

北部中央エリア

にぎわいと働きやすさ、暮らしやすさを高めるため、多様な都市機能の誘導とともに、低層部に、暮らしを支える施設、交流・滞留機能の誘導を図ります。

1  
横浜の  
陸の玄関口



2  
多様な都市機能  
の交わり



4  
閑静な住宅街



3  
まちをつなぐ

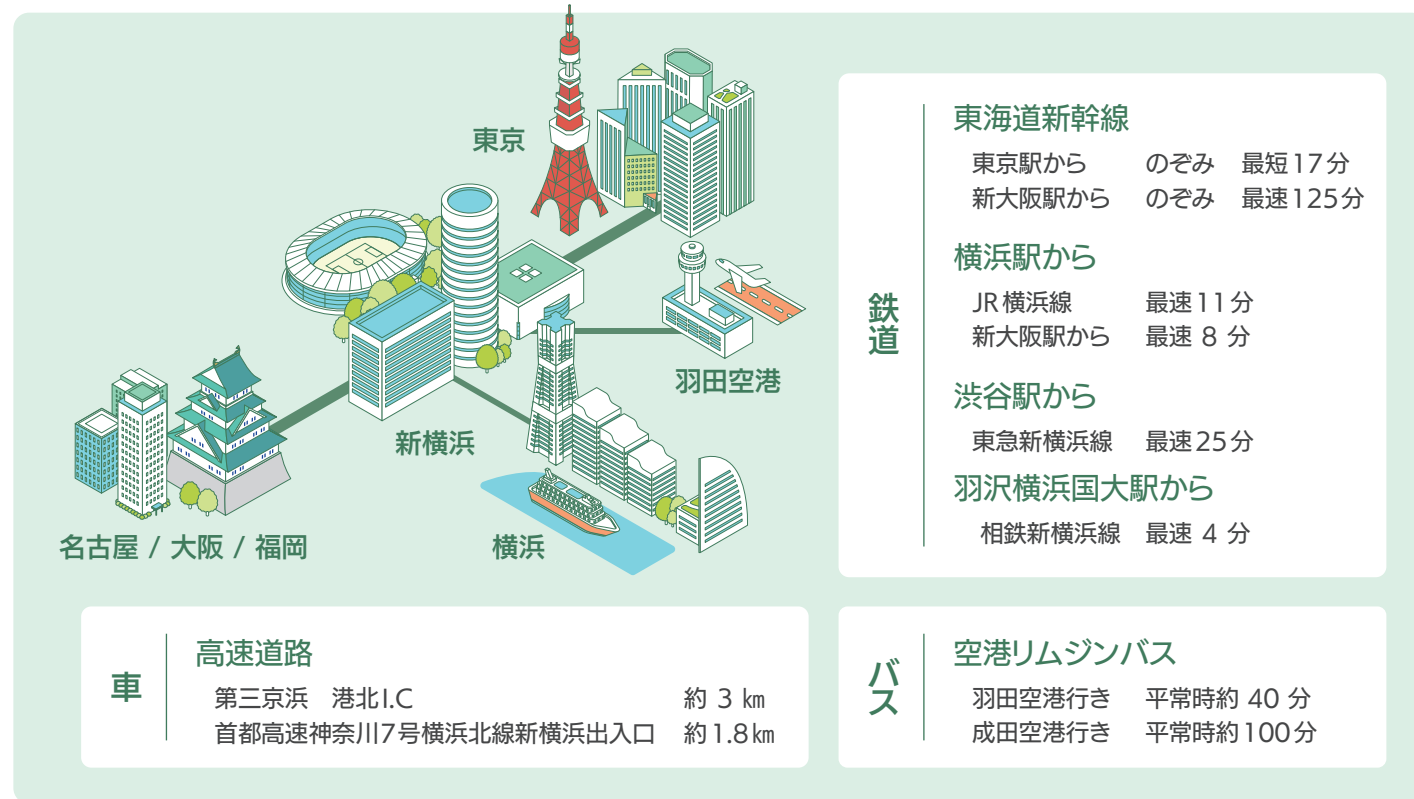


新横浜一丁目・川沿いエリア

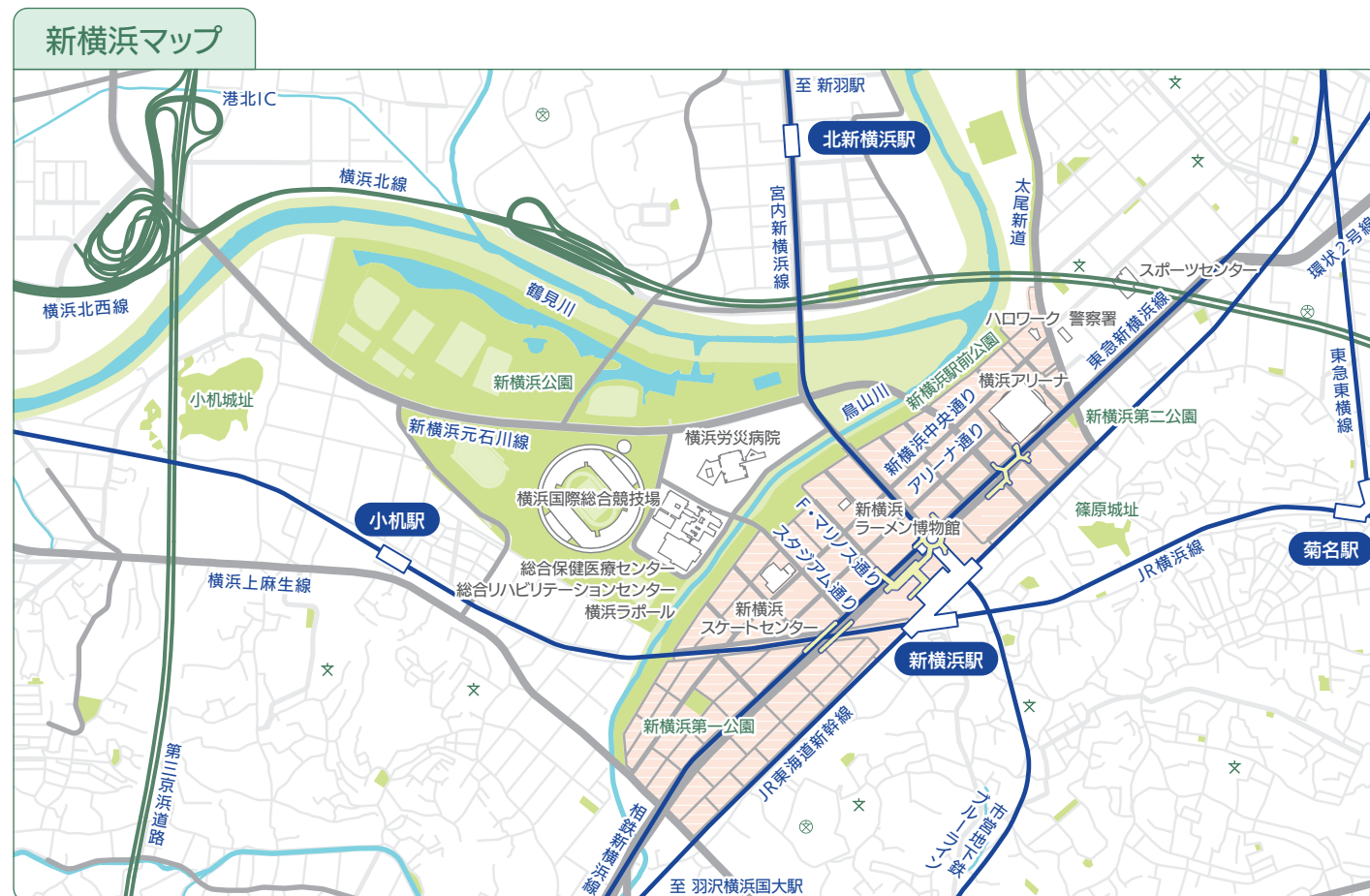
落ち着きを保ちながら、暮らしや子育て環境等の向上に資する利便施設の誘導とともに、暮らしにやさしい歩行空間づくりを推進していきます。

施設と通り

特性を生かした回遊性を生み、つながりを広げるため、デッキ等の拡充や歩行空間利活用の推進、持続する人のつながりづくりに取り組んでいきます。



2025 (令和7年) 9月時点



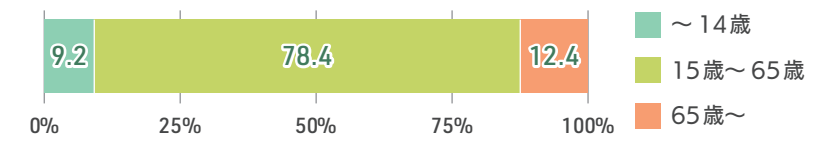
2026 (令和8) 年8月時点

## 拠点性が高く、人や企業がつどうまち 新横浜

### 総人口

2025 (令和7年) 1月時点

13,022 人

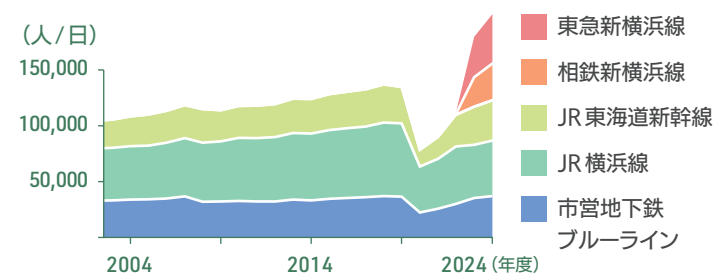


### 新横浜駅の乗車人員

2024 (令和6) 年度時点

199,849 人 / 日

横浜市内の駅で  
2 番目に多い!



### 新横浜駅発着のバス路線

2025 (令和7年) 9月時点

総路線数 17 路線

### 施設数

2023 (令和5) 年度時点

宿泊施設 30 施設

専門学校 5 校

### 年間来場者数

2024 (令和6) 年度時点

新横浜公園  
(横浜国際総合競技場含む) 約 159 万人

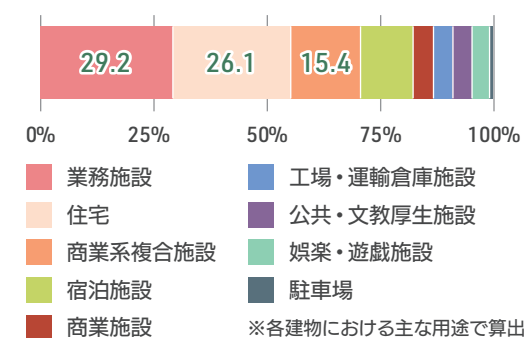
横浜アリーナ 約 189 万人

新横浜ラーメン  
博物館 約 82 万人

KOSÉ 新横浜  
スケートセンター 約 2 万人

### 建物用途別延べ床面積の割合

2023 (令和5) 年度時点



### 産業別事業所数・従業員数

2021 (令和3) 年6月時点

